

TRAFFIC ADVICE

★交通教育センターから



パネルディスカッションの様相

8月1日(金)、ラフレさいたま(埼玉県さいたま市)にて「08トライフック・セーフティ・フォーラムin埼玉」にて、「交通安全を考える」が開催された。(主催：交通安全センター・ライオン・セーフティ・フォーラムin埼玉)人・企業・信頼「交通安全防止は人である」がテーマで、(主催：交通安全センター・ライオン・セーフティ・フォーラムin埼玉)安全運転普及本部。

フォーラム開催を前に、午前中には動画版危険予測トレーニング(KYT)体験会が行われた。実際の運転に近い動画(CG)を使用して危険予測スキルを高めるトレーニングや危険場面の振り返りなどを参加者が体験した。

午後1時より行われた開会式では、主催者を代表して河野光彦(株)レインボーマーターズスクール代表取締役社長が挨拶。来賓を代表し中村孝司・埼玉県警察本部交通部部長が挨拶を述べた。

続いて、瀧上勝義・Safety Driving&Energy研究所所長による講演「心身の健康と安全運転」。安全運転指導において、技術・体力のトレーニングだけでなく、運

●交通安全を考える—人・企業・信頼— '08トライフック・セーフティ・フォーラムin埼玉

転に心を向けるための心のトレーニングの大切さを説明。安全運転につながる日常トレーニングとして、呼吸法や姿勢、心の向け方など潜在能力を發揮するためのエネルギーの高め方を紹介した。

事例発表は、関根信敏・東京明販(株)専務取締役による「安全運転管理「取組みの教訓」」。関根信敏氏は、これまで企業の安全運転管理を実践してきた経験の中で「トップの理解を取り付けること」「体験型事故者研修の実施」「事故の翌朝に事故者と上司管理者を呼んで面談すること」が事故削減につながったと報告。自社にあった方法を他社の失敗例・成功例から見出し、地道に取り組むことが重要であると伝えた。

事例発表の後は、野村邦丸(株)文化放送編成局アナウン斯巴次長をコーディネーターに迎え、パネルディスカッションが行われた。パネリストは、瀧上氏、関根信敏氏に加え、関根英仁・埼玉県警察本部交通部企画課事故分析担当補佐、青木岳・ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)人事総務本部総務部SAFE FLEET DESKの4名。関根英仁氏は、埼玉県警察本部が推進する「安全車間距離保持0102運動」を紹介。これは、前車がある目標物を通して、自車がある目標物を通して「ゼロイチ、ゼロ二」とゆっくり呼称して2秒以上の車間距離を確保するもの。青木氏は、「トップのコミットメント」「効果的なトレーニング」「継続的な活動」が安全運転の取組みで成果をあげた要因と紹介。安全運転の講習会等は対象者全員が100%受講するものという意識を社内ですべてすることが必要

NEWS REVIEW

●第41回二輪車安全運転全国大会 各都道府県の代表が 二輪車の安全運転を競う



8月2日、3日の両日、鈴鹿サーキット交通教育センターで「第41回二輪車安全運転全国大会」が開催された。(主催：(財)全日本交通安全協会二輪車安全運転推進委員会)。同大会は、二輪運転者の安全運転技能と交通マナーの向上を図ることにより、交通事故を防止することを目的として、昭和43年から毎年開催されている。41回目を迎える今年も、全国47都道府県から187名の代表が参加した。

競技は、法規履行走行と技能走行(10種目)を女性クラス(50cc)、高校生等クラス(50cc)、一般Aクラス(400cc)、一般Bクラス(750cc)に分かれて、各クラス別の個人賞と各クラスの得点を合計した総合得点で団体賞を競う。

大会2日目には、記念式典が国際レーシングコースにて開催され、大会副会長の青木哲(社)全国二輪車安全普及協会会長と入谷誠・三重県警察本部部長が挨拶。出場選手全員による走行パレードが行われた。

大会成績は、団体優勝が埼玉県、2位・岡山県、3位・大阪府。個人賞は、女性クラス・山下美奈子さん(熊本県)、高校生等クラス・人見達也さん(埼玉県)、一般Aクラス・鳥居剛也さん(愛知県)、一般Bクラス・漆原宏輔さん(静岡県)が優勝した。

女性クラス優勝の山下さんは、「練習を支えてくださった皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいなんです。この経験を活かし、高校生などに安全運転を伝えていきたいです」と話す。また、高校生等クラスで優勝した人見さんは、「優勝という結果に非常に驚いています。運転姿勢などを意識して、安全運転を続けていきたい」と喜びを語った。

と語った。また、会場から若年者の事故や駐車場の効果的な事故防止について質問があり、パネリストから「技術が未熟ならば、企業が練習の機会を与えること」「時間に追われるのではなく、運転に気を向けゆとりを持つこと」といった意見が出されるなど活発な意見交換の場となった。



瀧上勝義・Safety Driving & Energy 研究所所長



関根信敏・東京明販(株)専務取締役



関根英仁・埼玉県警察本部交通部企画課事故分析担当補佐



瀧上勝義・Safety Driving & Energy 研究所所長



野村邦丸(株)文化放送編成局アナウン斯巴次長

Hondaグループから SAFETY REPO

●Honda Cars 富山・親子安全教室 地域の子どもたちを事故から守るための 四輪販売会社による交通安全教育

8月2日、ホンダカーズ富山が同社のお客様を含む地域の親子を対象に「親子安全教室」を開催(協賛：本田技研工業(株)安全運転普及本部・社会活動推進室)。会場のKNB入船別館(富山県富山市)には親子約130名が集まった。

ホンダカーズ富山部長の浅生忠和さんは親子安全教室を始めた背景を次のように語る。「昨年、お客様に選ばれる店づくりをめざすため、社内に「安心安全ECCOプロジェクト」を立ち上げました。親子安全教室はその活動の一環として企画したもので、昨年に続き2回目の開催です。地域の子どもたちを交通事故から守ることを目的としていますので、当社のお客様以外でも参加できるようにしています」。

8月2日、ホンダカーズ富山が同社のお客様を含む地域の親子を対象に「親子安全教室」を開催(協賛：本田技研工業(株)安全運転普及本部・社会活動推進室)。会場のKNB入船別館(富山県富山市)には親子約130名が集まった。

「道を渡る時には3つの大切な約束があります。しっかりと覚えてください」とお姉さんが語りかけ、「止まる」「道を渡る前に信号が青でも、必ず止まる」「手をあ



ミニチュアの信号機と横断歩道で、渡る時の3つの約束を実践する子どもたち



子どもだけでなく、大人もお姉さん、お兄さんの話に聞き入った



多くの子どもたちがHonda自転車シミュレーターを体験

としい ひよこ編」を使った交通安全のお話を始めた。子どもたちの前にある大きなスクリーンに映し出したイラストを見せながら、道路での正しい歩き方を指導する。

「道を渡る時には3つの大切な約束があります。しっかりと覚えてください」とお姉さんが語りかけ、「止まる」「道を渡る前に信号が青でも、必ず止まる」「手をあ

この日はホンダの「交通安全キャラバン」が会場を訪問し、指導を担当する2名の俳優による交通安全教室が行われた。お姉さん役とお兄さん役の俳優は、親子の前で絵本の読み聞かせをした後、「あやとりい ひよこ編」を使った交通安全のお話を始めた。子どもたちの前にある大きなスクリーンに映し出したイラストを見せながら、道路での正しい歩き方を指導する。

「見る」と声をだし、身体を動かしながら繰り返し練習。最後はミニチュアの信号機と横断歩道を使って、子どもたち一人ひとりが渡る時の3つの約束を実践した。

お子様と参加した松田光司さんは「子どもたちが身体を動かすことで、道路を渡る前に止まる、左右を見るクセを身につけられる内容で、幼児にはピッタリです。司会のお姉さん、お兄さんの説明も子どもたちにわかりやすいものでした」と感想を話す。

「交通安全キャラバン」が終わると、子どもたちはホンダ自転車シミュレーターを体験し、正しい自転車の乗り方を学んだ。小学生のお子様と来場した水原明美さんは「子どもは交通ルールを意識せずに自転車に乗っていることが多いので、ルールに則った乗り方を身につけるには最適だと思えます」と自転車シミュレーターを評価する。

また、親子でシートベルトコンビンサーを体験してもらい、全席でのシートベルト着用の必要性を伝えた。この他、ホンダのモデル(電動車いす)の体験試乗会も行われるなど、親子安全教室は多くのお客様にぎわった。

また、親子でシートベルトコンビンサーを体験してもらい、全席でのシートベルト着用の必要性を伝えた。この他、ホンダのモデル(電動車いす)の体験試乗会も行われるなど、親子安全教室は多くのお客様にぎわった。

また、親子でシートベルトコンビンサーを体験してもらい、全席でのシートベルト着用の必要性を伝えた。この他、ホンダのモデル(電動車いす)の体験試乗会も行われるなど、親子安全教室は多くのお客様にぎわった。

また、親子でシートベルトコンビンサーを体験してもらい、全席でのシートベルト着用の必要性を伝えた。この他、ホンダのモデル(電動車いす)の体験試乗会も行われるなど、親子安全教室は多くのお客様にぎわった。

シートベルトコンビンサーの体験も親子に好評だった

**9月30日は
交通事故死者数をゼロに**

今年2月20日と4月10日に続き、9月30日も「交通事故死ゼロを目指す日」に決定された。詳しくは内閣府のホームページを参照
<http://www.8.cao.go.jp/koutu/taisaku/zero/zero.html>

※1 交通安全キャラバントレーニングを積んだプロの俳優たちが進行役になり、子どもたちを飽きさせないよう工夫された交通安全教室。Hondaが人間形成に大きな影響を与える幼児期から交通安全の基本を身につけてもらうことが大切であると考え、1999年より未就学児を対象に事業所の周辺でスタートさせた。2007年度は641の幼稚園・保育園を訪問。

※2 あやとりい=鈴鹿モビリティ研究会が開発した交通安全教育プログラム。幼児向けの「あやとりい ひよこ編」、小学3・4年生向けの「あやとりい」、小学生向けの「あやとりい 自転車教室」、高齢の歩行者・自転車利用者向け「あやとりい 長寿編」がある。あやとりいは「あんぜんを やさしく とときあかし りかいして いただく」の略。詳細は以下ホームページを参照。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/ayatori/>

※3 Honda自転車シミュレーター=自転車利用者のマナーや危険予測能力を高めることを目的に、Hondaが開発中の体験型教育機器。現在、効果的な教育方法などを研究中。